

「新しい総合計画（素案）に関する説明会」結果

市町村名	名張市	開催場所	すずらん台市民センター
開催日	9月27日（土）	開催時間	14：00～15：45 （1時間45分）
参加者数	約17名		
説明者	名張市長、企画財政部長、 秘書室長、総合企画室長 他	【備考】	

1．開会（司会）【14：00】

2．あいさつ

- ・ 地区代表区長幹事

3．出席者紹介（司会）

4．事項

- ・ 総合計画素案の概要説明（家里部長）【14：05～14：37】

- ・ 市長【14：37～14：47】

- ・ 質疑【14：47～15：45】

Q（参加者）財政計画との関係はどうなっているのか？（基本構想の内容は）どの位の予算規模になるのか？（大枠で構わないので）

A（市長）中期財政見通しは出来ています、それに沿ってハードの整備を進めるわけですが、「待ったなし」の事業もあります。

例えば、下水道供用開始の条件となっている「ふれあいスポーツプラザ」、現在の消防署では震度6の地震に耐えることができませんので、これも待ったなしの事業です。

学校の場合には、耐震補強をするよりも建替えた方が費用のかかるものがあります。避難場所にもなっていますので...、その他にも新清掃工場は、時間が限定されています。きちっと財政計画に基づいて、していかなければならないと思っています。

Q（参加者）財政が楽になったら、我々の負担はどの位になるのか？

A（市長）財政非常事態の2年間で過ぎても、税収が減少しているので、バラ色の未来が待っている訳ではなく、改革を継続することが必要です。今、最も大変な時期であります。その辺りについては、担当の方からお答えします。

A（総合企画室長）昨年の9月に財政非常事態宣言を出しました。三重県の市町村はどこも厳しい状況ですが、その中でも名張市は厳しい状況です。名張市よりも厳しい尾鷲市では、名張市の1年前に財政危機宣言を出しています。

中期財政計画の見通しについては、合併の際も説明していますが、昨年から今年に

かけて、様々な改革のなかで、実質的に 13 億円程度の改革をすることができました。それでも厳しい状況であり、今のままでは 10 億円程度の改革を進めなければ厳しいという状況です。

次の世代はどうかということですが、国で 500 兆円、地方で 199 兆円の長期債務を負担するというなかで、抜本的に行政のしくみや財政計画を国のレベルで見直さないと厳しいと思います。

この総合計画が画に描いた餅にならないように、改革によって徹底的にしくみを変えていく、単なる節約では乗り切れません。また、基本計画のなかでも、きちっと財政計画を反映していくようにします。

Q (参加者) 今日、現在のところで「伊賀市」という表現を使用しても良いものか？

A (市長) 来年 11 月に、伊賀市を立ち上げられるという時期なので、仮称という形で「伊賀市」の名称を使用しました。

A (総合企画室長) 基本構想は将来を想定して検討しましたので、「伊賀市」という名称を使用しました。今後は、“仮称”とか“見込み”といった表現を用いるようにします。ただし、地区別まちづくりの方針については、今後、地域づくり委員会等で検討されたものを行政計画として反映いたします。

A (部長) 思わしくない表現のある場合は、皆様の意見によっていいものを作っていきたいと思っています。これについては、事務局の担当として作成したものですので、地域で検討いただければと思います。

A (市長) 伊賀市と名張市になったら、さらに連携を強化しなければならないと思っています。一部事務組合、介護保険、国民健康保険については、合併してから 2 年をめどに話し合いをするように提案しています。

Q (参加者) 具体的でないので、イメージできない。「水と緑のガーデンシティプラン」についても、財源があるのか？具体的に示して欲しい。

大学生の娘が、夏休みで名張に帰ってきて、行くところがなくて退屈している。女の子ひとりで自転車に乗っていくのは、危ないという懸念もある。若い人は車を利用して外に出ることができるが、老人は孤立している。桔梗が丘駅までのバス料金が往復で 700 円、名張駅までは行けば往復で 1,000 円程度かかる。交通費が高いので、赤目滝などの観光資源に恵まれているのに、なかなか行くことができない。

A (市長) 冊子にする前に意見を求めるという趣旨なので、年次別の数値目標を入れる等して具体的にしていきます。

水と緑については、スローの概念と一致するものであり、市街地から車で 10 分走ると、恵まれた自然のある名張市の特性を活かしていきたいと思っています。

財政が厳しくなるのに、本当に実現できるのかということですが、名張市は同時期に同世代の方が住宅地に入居されていますので、急激に同時に高齢化するのには住宅地の宿命です。ただ、名張市には経営資源となる人材が豊富なので、老人が子育てを支援する等、福祉の消費者が福祉の生産者となるように、まちづくりの生産者となっていただく方が沢山いるので、様々なまちづくりの仕掛けを検討しているところです。

コミュニティバスについては、計画中で、来年度よりテスト的に1地域で運行の予定です。きめの細かい方法でやっていくつもりです。これから検討委員会を立ち上げます。

A(部長)平成14年度の決算は大変な数字でした。経常収支比率が下から13市中2番目で、公債費比は13市中13位です。財政非常事態宣言をして、職員が一丸となり、健全経営を目指して、給与カット・新規採用職員のカット・職員が時間外に草刈りを行う等、庁舎管理費の削減を実施していますので、ご理解いただきたいと思います。

このように厳しい財政となった原因は、市立病院の建設とその運営費や大学誘致によるもので、借金がピークになっています。

Q(参加者)財政の立て直しが、コテ先で難しいのはわかる。基本計画・実施計画において、財政の立て直しをどうするのか、実現するための方策をクリヤーにして欲しい。

平成13年度から始まった現行計画には、基本計画と実施計画がなかったのか？

A(市長)財政の健全化計画については、立てさせていただいておりまして、これを説明する機会を創らなければいけないと思っています。

総合計画を画に描いた餅に終わらせないために、今、現実に即した計画に見直さなければならぬと思ったわけです。当然ながら、基本計画・実施計画は作成しました。その辺については、担当よりお答えします。

A(総合企画室長)「名張新世紀創造プラン」は、基本構想と前期基本計画が一緒になっています。ローリング方式の実施計画では目標がはっきりとしないので、今回の実施計画については、ローリング方式よりも予算編成と連動させて目標をはっきりとさせるために3年間の固定とし、行政評価を徹底して実施し、評価のなかで説明責任を果していきたいと考えています。

財政計画についても、明確にお示ししたいと思います。

現行の計画がいい加減な財政計画に基づいて、策定したものではありません。当時の森総理の財政再建プログラム等に基づいて策定したものです。

いずれにしても、持続可能なまちづくりを進めていくためには、厳しい見通しの計画を立てることが妥当だと思います。例えば今まで行政が施策の実施主体でありましたが、こうした役割も変わっていくだろうということで、むしろ実施するのが民の力であったりします。行政のしくみを変えて、職員を3分の1くらいにするとか、そういったことを踏まえて、リーディングプランを実施するということです。

志木市のように職員を10分の1にすると、問題が大きくなってしまおうように思います。

(参加者)自立という言葉で、痛みを住民に転嫁しているのではないか？市が情報をオープンにすることが、必要不可欠である。

Q(参加者)合併しないと、交付税が減ると聞いたが？単独ということで、作成した財政見通しなのか？

A(部長)合併の際にも示しましたが、単独市政を選択しましたので、予期しない税収減も

あります。中期財政見通しは、単独で積算したものです。今後、オープンにしていきます。

A（市長）三位一体の改革では、税財源の移譲は8割とされていますので、運営費のカットをどう工夫するかという問題があります。

Q（参加者）名張が合併していたら、伊賀市の議席はどうなっていたのか？

A（市長）法律では34議席です。

Q（参加者）名張固有の文化を大事にしなければいけない、新旧住民に差がありすぎるので、新旧住民の融和が必要である。

A（市長）伝統文化を活かした情報発信をしたいと考えています。

Q（参加者）桔梗が丘では歩道の改修が行われていましたが、一緒に車道のデコボコも直してもらいたかった。

A（市長）桔梗が丘では、歩道に根が張ってきているので、年次計画を立てて補修しているところで、車道までは及びません。なお、下水道やガスとは連携して無駄のないようにします。

A（部長）アクセスの問題ですが、週1回ですが福祉バスを利用して、「ふれあい」まで行って買い物をしてもらって結構です。

Q（参加者）財政が苦しい、改革を進めているというが、パンフレットには良い紙が使われている。

A（部長）単色で図面などを、識別できるようにするには、この紙質が精一杯でした。

5．閉会

パブリックコメントで、ご意見をお寄せいただきまようによろしく申し上げます。（司会）